

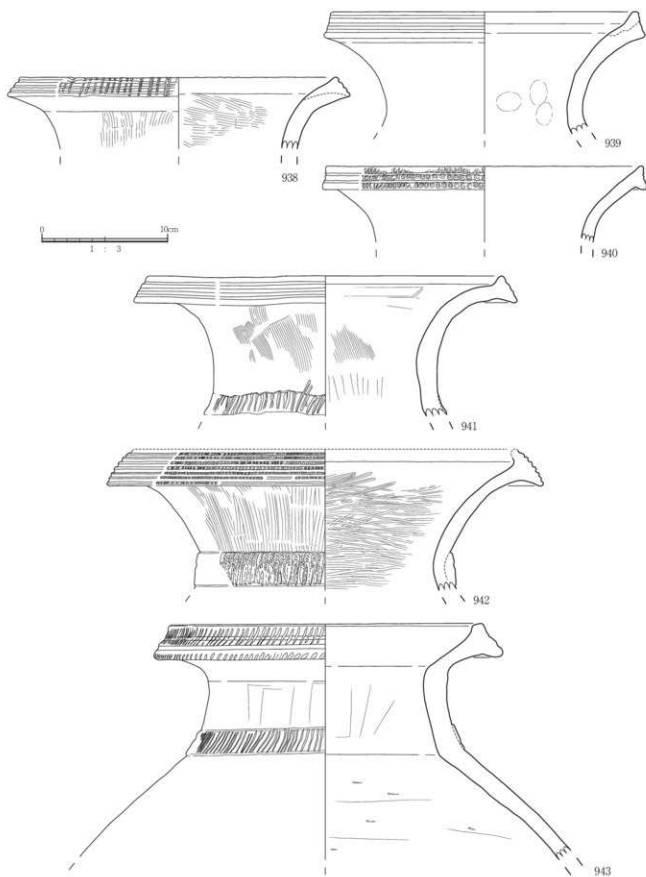


図315 SR15 出土遺物 2



図316 SR15 出土遺物 3



図317 SR15 出土遺物 4

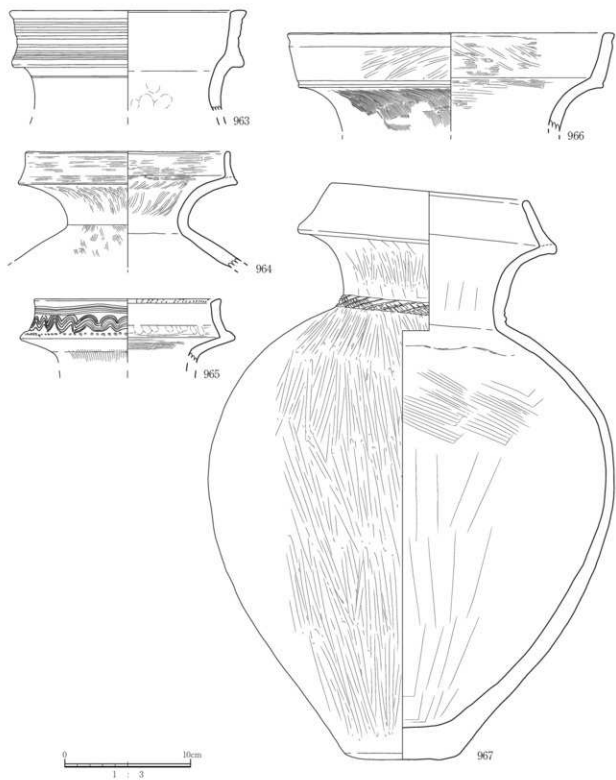


図318 SR15 出土遺物 5

土器甕、または台付鉢の底部の可能性がある。1024は弥生土器支脚とした。1025は土師質で口縁部の外面直下が突出する。種類、器種ともに不明である。1026は土師質で胴部上位に方柱状の突起を有する。こちらも種類、器種ともに不明である。1027～1029は須恵器蓋で、1028の内面には漆と推測される付着物が認められる。1030・1031は須恵器杯である。1032は京都系の緑釉陶器碗で釉が黒色化している。1033は須恵器甕の胴部片で内面に墨痕と擦痕が残る。転用硯だろう。

石器 1034は石英を多く含有する珪質片岩製の石庖丁である。両面ともに自然面としたが、片理に沿って分割したものが素材の可能性もある。周縁部を中心に剥離によって整形され、背部は敲打によって形成されている。側面の挟りの一部にも敲打痕が残る。研磨痕は施されていない。刃

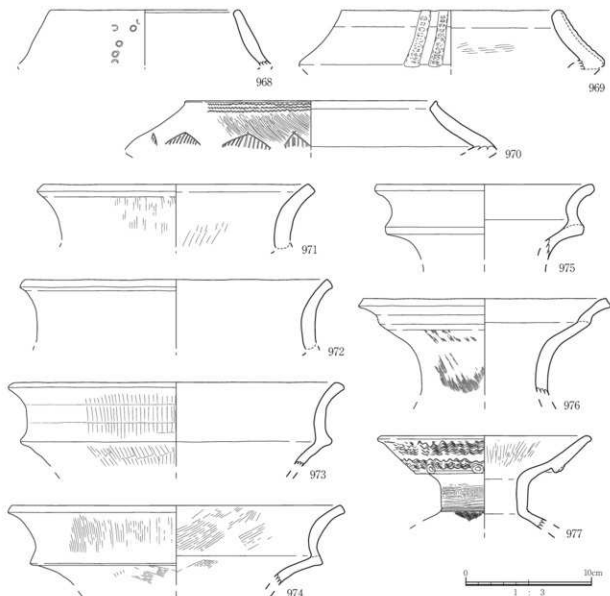


図319 SR15 出土遺物 6

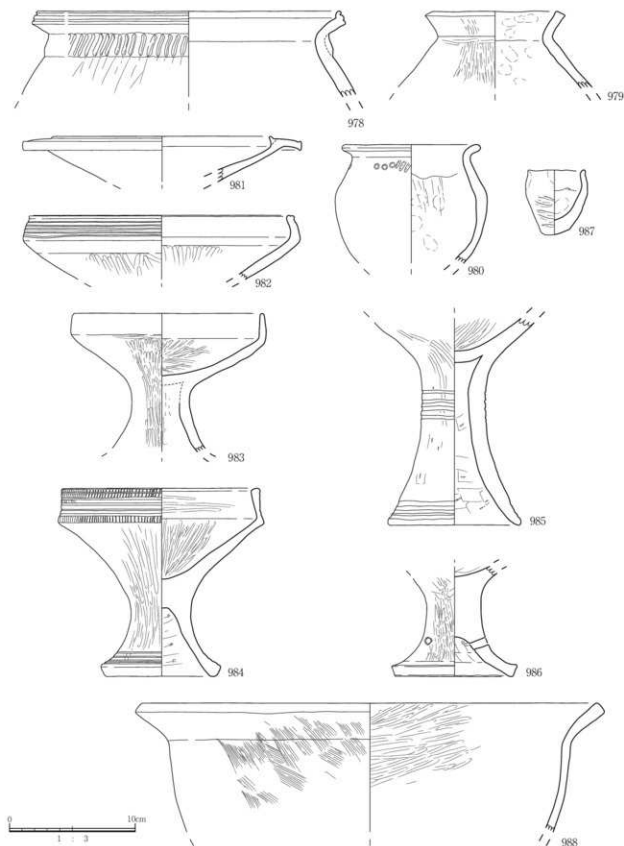


図320 SR15 出土遺物 7

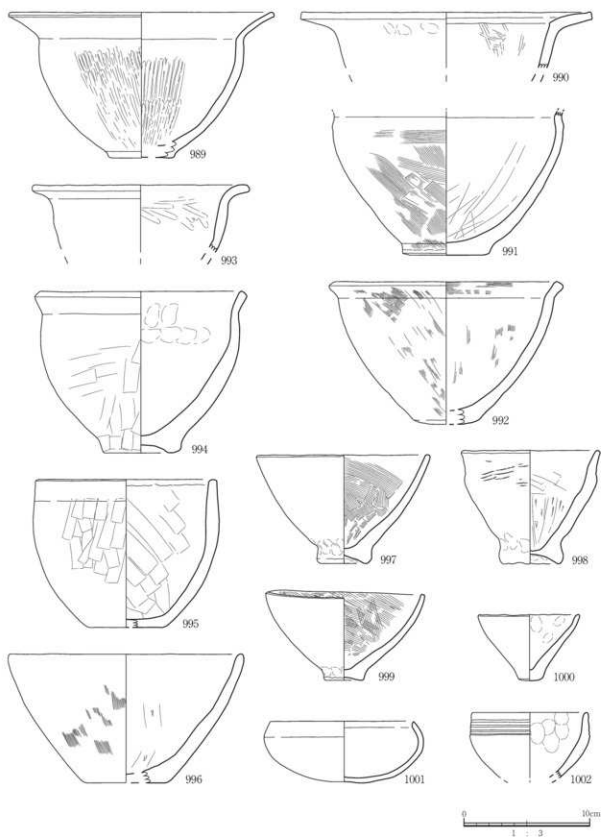


図321 SR15 出土遺物 8

部の一部は摩耗している。1035は濃緑色を呈する緑色片岩製の石庖丁である。A面左端部の窪みは回転穿孔法による紐穴の残存部で、当該箇所では割れた後にA面左端部を剥離によって整形して抉りを有する石庖丁に再生したものと推測される。欠損によりA面右端の仕上げは不明である。剥離後の敲打痕が残る端部を背部とした。刃部に相当する端部には細かな剥離の後の擦痕により狭小な平坦面が形成されており、鋭利な刃端部は残っていない。体部のほぼ全面に研磨が施されている。1036は赤紫色の珪質片岩製の石庖丁である。石英や白雲母を多く含有する。B面はほぼ全面が剥離面と推測されるため、素材は原石を分割した剥片だろう。剥離によって背部や抉り、刃部が形成されている。背部としたA面上端に敲打による調整がないため、こちらも刃部として使用された可能性もある。なお、下端の刃部には使用に伴うとみられる摩耗が認められる。1037はサヌカイト製の凹基式石鏃である。1038は砂岩製の叩石である。やや扁平な楕円体のA面長軸方向および短軸方向に敲打で若干の窪みが形成されている。1039は灰白色の凝灰岩製砥石であ

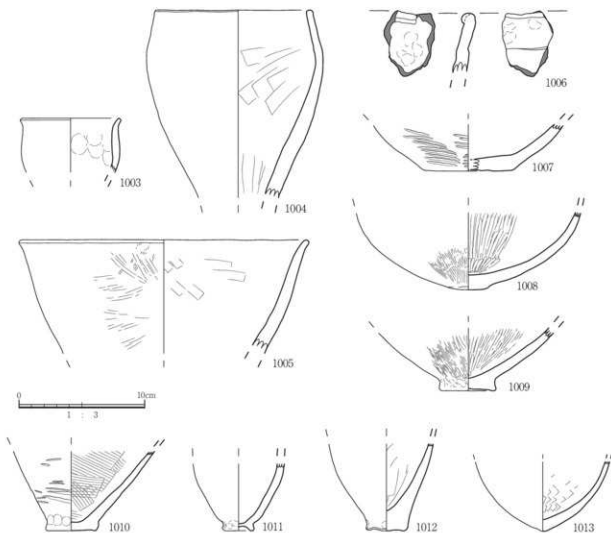


図322 SR15 出土遺物 9

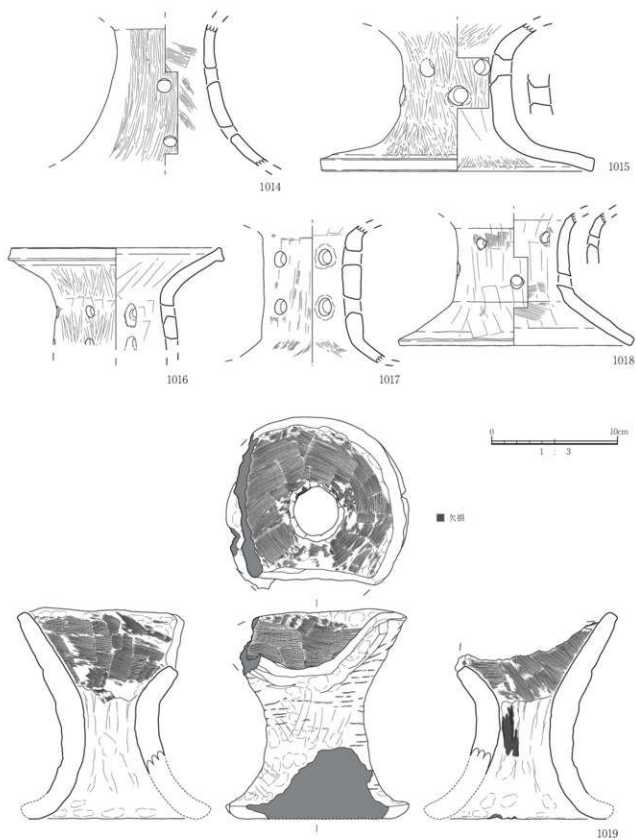


図323 SR15 出土遺物 10

る。横断面形は矩形を呈する。欠損する上部を除く5面に擦痕が残る。下部は割れた後に再度使用されている。1040は砂岩製の有溝石錘である。やや扁平な楕円体で、A面の長軸方向端部に溝をもつ。A面両側には長軸方向に併行する緩やかな稜が認められる。稜付近の表面は滑らかなため、側縁部を中心に研磨で整形されている可能性もある。なおA・B面中央部付近の表面は滑らかではない。1041は砂岩製の砥石でB面にのみ擦痕が残る。また、A面中央部を中心に敲打痕が認められるため、叩き石としても使用されたと推測される。

(3)時期 弥生時代終末期～古墳時代前期(VI-1様式～I-1期)のSR29に後出する点や977などから古墳時代前期(I-1期)と考えられる。

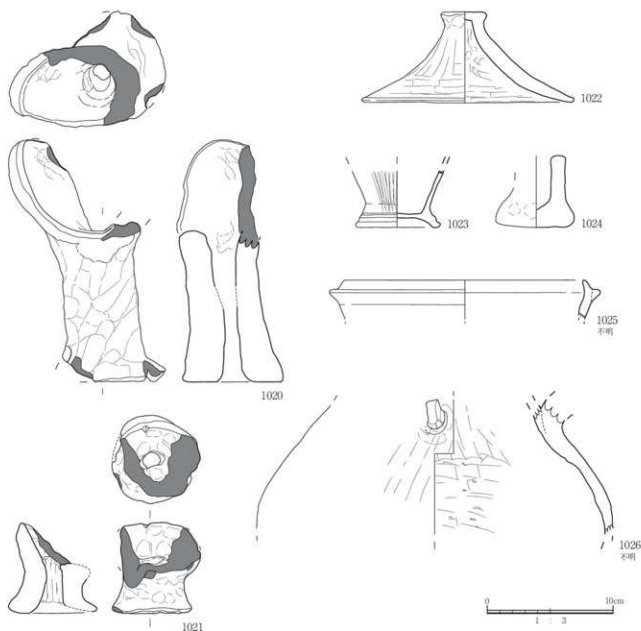


図324 SR15 出土遺物 11

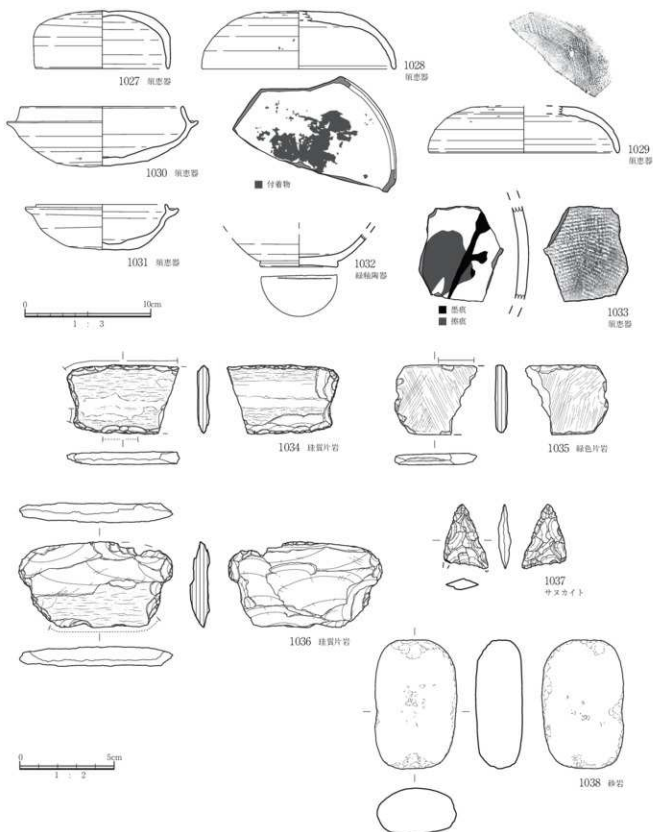


図325 SR15 出土遺物 12

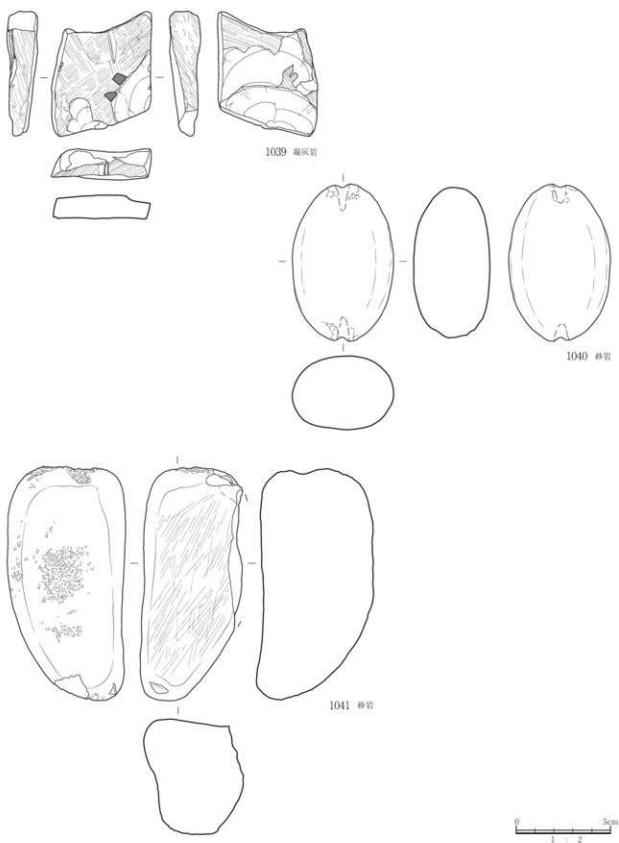


図326 SR15 出土遺物 13

14 SR15・18・29 浅谷1-B

遺物(図327～329) SR15・18・29のいずれかから出土した遺物である。

土器 1042～1051は弥生土器壺である。短頸壺1042の口縁端部は内外に拡張し、明瞭な凹線文をもつ。1043・1044は短頸広口壺、または短頸直口壺だろう。1046は肩部に接続する把手だろう。1048は手づくねで整形された小型壺である。1049は壺の胴部片に「キ」状の記号文が描かれている。1052・1054・1055は弥生土器甕である。1052はヨコナデにより口頸部境の強い屈曲と口縁端部の凹線文が生じている。1053は土師器甕で、口縁部はやや厚く端部は丸く収められる。1056～1061は弥生土器高杯である。1056の脚部には3条の沈線文と3条の凹線文に挟まれた区画に矢羽根形透孔が穿たれる。1057・1059には縦位の沈線文がみられる。1062は弥生土器支脚、1063～1065は弥生土器鉢である。1066は瓦質土器擂鉢で、内面にまばらな卸目が認められる。1067は須恵器甕、1068は須恵器杯、1069は黒色土器碗である。

15 SR16 (11区-SR3) 浅谷1-B

(1)遺構(図330～334) 西から蛇行しながら北東へ伸びる流路で、長軸方向はN-50°-Eである。全長が残存で93.05m、幅は9.3m～1.8m、最大深度は1.25mである。砂または砂質土が主体となるため、流水を伴った堆積と推定される。中央付近で検出した3か所の土器溜まりは、いずれも岸側からの投棄によると考えられる。北東側でSR11と合流する可能性もあるが、北端部が調査区端であることから明確にはとらえられていない。SR14に後出する。

(2)遺物(図335～372) 弥生土器片、須恵器片、石器など合わせて9,874点が出土した。このうち164点を図化した。

土器 1070～1145は上層から出土した遺物である。1070～1111は弥生土器壺で、1070～1077は口縁端部外面に凹線文をもつ。1070～1073の頸胴部境には突帯が貼付されており、1070・1072は瓦痕文、1071・1073には刻目文が認められる。1072の突帯下方の刺突状の文様は、上方の刻目文施工時の工具によるものだろう。1075は口縁端部外面に2個1組、おそらく4方向の円形浮文が付されている。口縁部の端部近くには2孔1組の円形孔が穿たれる。1078～1111には明瞭な凹線文が認められない。1096は拡張する口縁端部に円形浮文と波状文が施される。1097は長頸広口壺で口縁端部外面、および口縁部内面の端部寄りに波状文が巡る。1103の口縁部は外反する頸部から直立して形成される。1104は、胴が張る広口壺で口縁端部外面には細かな波状文が巡る。1105～1111は複合口縁壺である。1105の口縁部外面には斜格子文が施される。1108・1109の口縁部外面には波状文が認められ、口縁部が完形に復元可能な1109の波状文は上下2段となっている。1110の口縁部内外面のミガキは等間隔で施されている。1112～1230は弥生土器甕である。1112の拡張する口縁部外面には凹線文が巡るが、頸胴部境の屈曲は弱い。1114は手づくねで整形されたような小型品である。1115は胴部が張る小型の甕である。1120の実測図は2パーツで示した。両者は摩擦の度合いや器壁の厚さなどから同一個体と思われるが、接点がないうえ、復元径が異なるため図を分けた。おそらく、土器全体が歪んでいるためそれぞれの破片による復元径が異なるためと推測される。1123～1126は胴部がやや細身で頸胴部境に強い屈曲をもつタイプである。1127・1129・

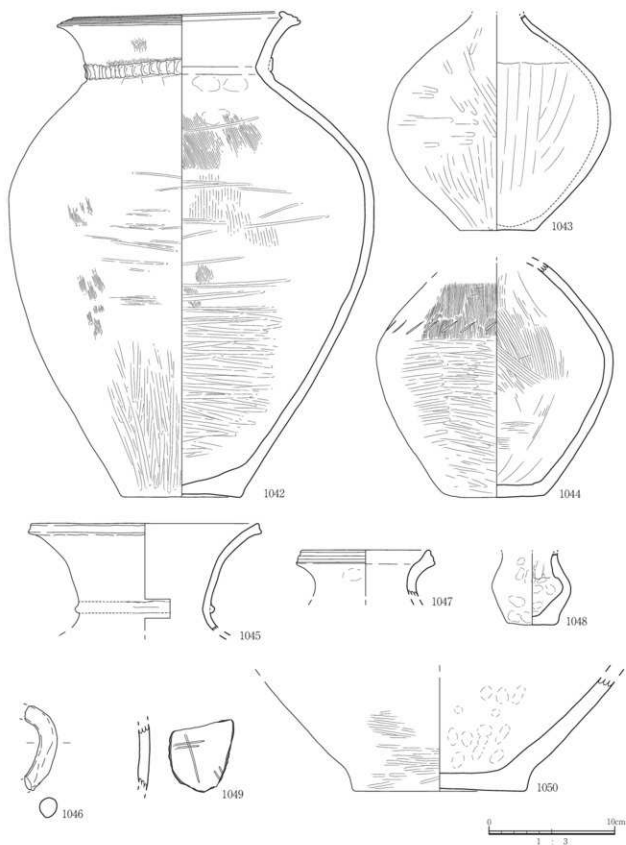


図327 SR15・SR28・SR29 出土遺物 1

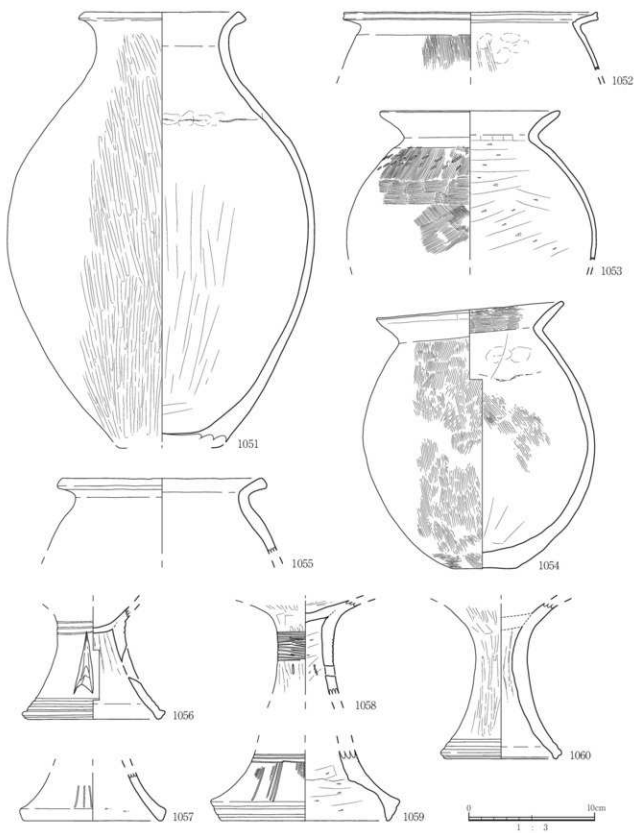


図328 SR15・SR28・SR29 出土遺物 2

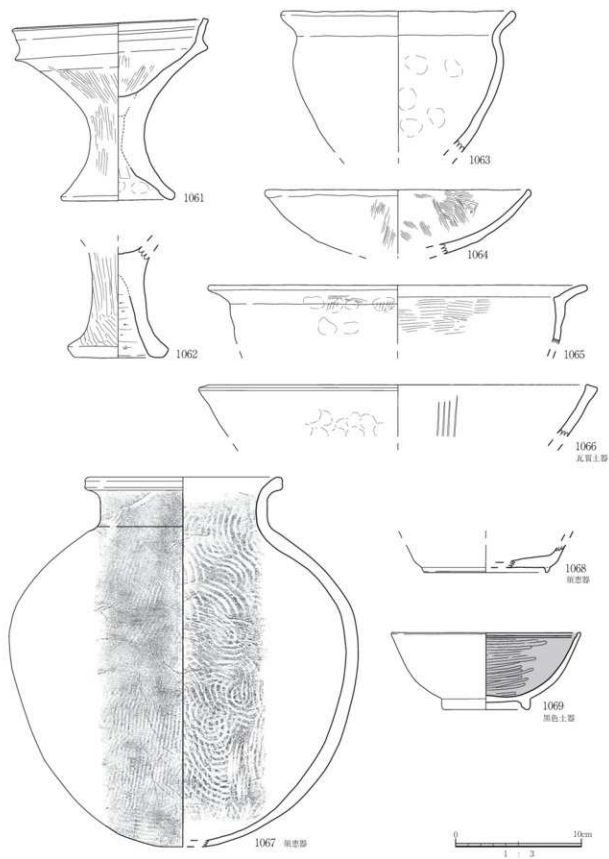


図329 SR15・SR28・SR29 出土遺物 3

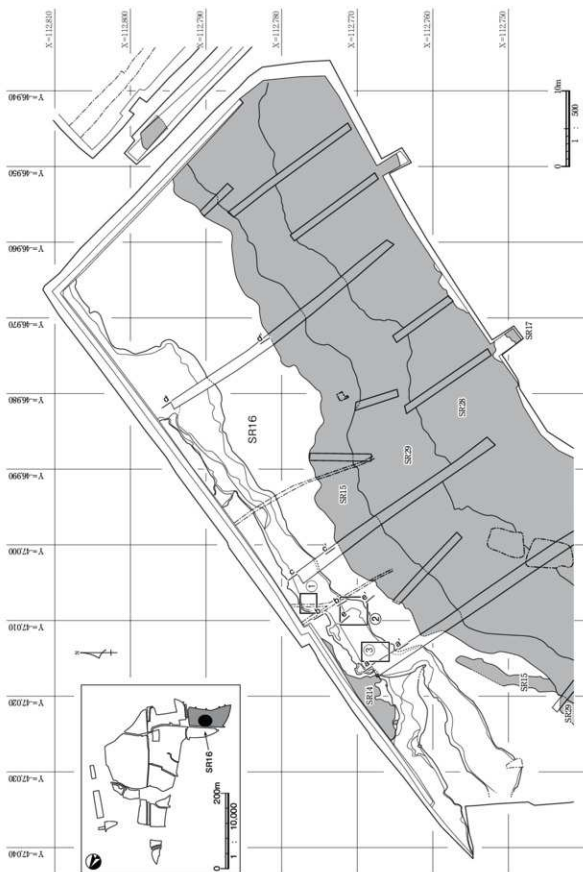


図330 SR16 平面

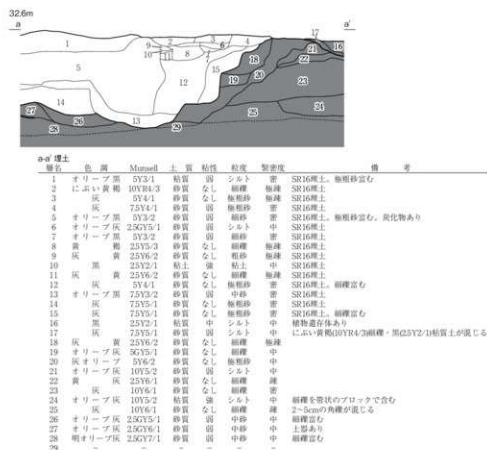
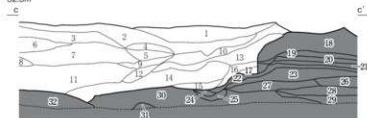


図331 SR16 断面 1

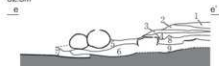
32.3m



c-c' 埋土

層名	色	調	Munsell	土質	粘性	粒度	堅密度	備考
1	黒		2.5Y2/1	砂	弱	中砂	SR16埋土	
2	黒	間	2.5Y3/1	粘土	強	極細砂	中	SR16埋土
3	灰	白	2.5Y7/1	砂	なし	細砂	極疎	SR16埋土
4	黄	灰	2.5Y6/1	砂	なし	細砂	疎	SR16埋土
5	黄	灰	2.5Y4/1	砂	なし	粗砂	疎	SR16埋土
6	灰	黄	2.5Y5/2	砂	なし	細砂	疎	SR16埋土
7	灰	白	2.5Y7/1	砂	なし	細砂	極疎	SR16埋土
8	オリーブ黒		5Y3/1	粘土	中	粘土	中	SR16埋土
9	オリーブ黒		5Y3/1	砂	中	シルト	中	SR16埋土
10	灰	白	5Y4/1	砂	なし	細砂	疎	SR16埋土
11	灰	白	2.5Y7/1	砂	なし	細砂	極疎	SR16埋土
12	オリーブ黒		5Y3/1	砂	中	シルト	中	SR16埋土
13	黒		5Y2/1	粘土	強	粘土	密	SR16埋土。細砂含む
14	灰オリーブ		5Y6/2	砂	中	シルト	中	SR16埋土。オリーブ黒5Y3/1砂を筋状に含む
15	オリーブ黒		5Y3/1	粘土	強	シルト	中	SR16埋土
16	灰		5Y4/1	砂	なし	細砂	疎	SR16埋土
17	灰		5Y5/1	砂	なし	細砂	疎	SR16埋土
18	灰		10Y5/1	砂	なし	細砂	密	
19	オリーブ灰		10Y5/2	砂	弱	極細砂	中	
20	灰		7.5Y4/1	砂	中	シルト	中	粗砂含む
21	暗緑灰		7.5G4/1	粘土	強	粘土	中	
22	灰		7.5Y4/1	砂	中	シルト	中	
23	灰	黄	2.5Y6/2	砂	なし	細砂	中	
24	灰	白	2.5Y7/1	砂	なし	細砂	極疎	
25	オリーブ黒		5Y3/1	粘土	強	粘土	中	
26	灰		5Y4/1	粘土	強	粘土	中	
27	黒	間	2.5Y3/1	粘土	強	粘土	中	
28	灰		7.5Y6/1	砂	なし	細砂	疎	
29	灰		7.5Y6/1	砂	なし	極細砂	疎	
30	灰	白	2.5Y7/1	砂	なし	細砂	極疎	植物遺存体を含む
31	灰		7.5Y4/1	粘土	強	シルト	中	
32	灰オリーブ		5Y5/2	砂	なし	細砂	極疎	

32.3m



e-e' 埋土

層名	色	調	Munsell	土質	粘性	粒度	堅密度	備考
1	暗灰	黄	2.5Y5/2	砂質	なし	細砂	疎	SR16埋土
2	黄	間	2.5Y5/6	砂質	なし	極細砂	中	SR16埋土
3	暗灰	黄	2.5Y5/2	砂質	なし	極細砂	中	SR16埋土
4	暗灰	黄	2.5Y5/2	砂質	なし	極細砂	中	SR16埋土
5	灰		5Y4/1	粘土	中	シルト	中	SR16埋土
6	灰オリーブ		5Y4/2	砂質	弱	粗砂	疎	SR16埋土
7	灰		5Y5/1	粘土	中	シルト	中	SR16埋土。炭化物あり
8	灰		7.5Y4/1	粘土	中	シルト	中	
9	灰		5Y4/1	砂質	弱	極細砂	中	



図332 SR16 断面 2

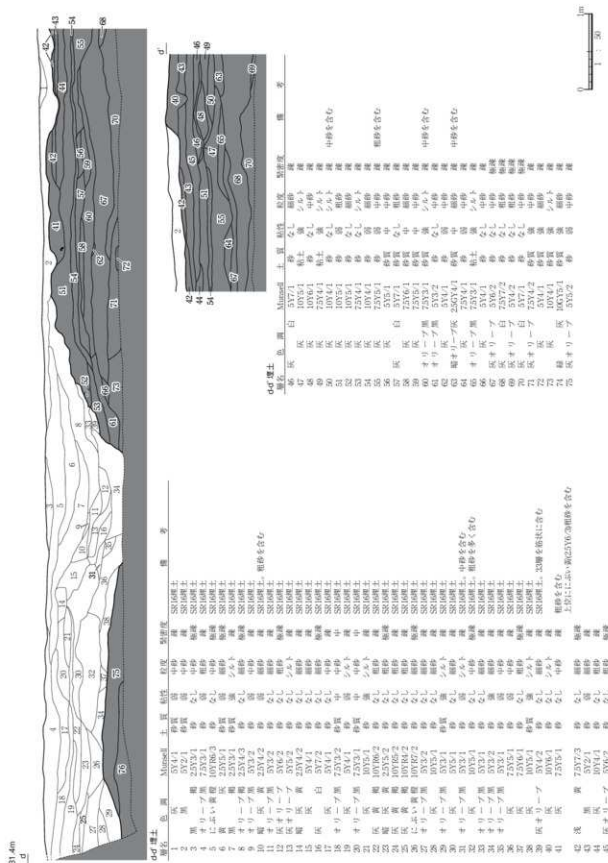


图 333 SR16 断面 3